

## 社会科学習ワークシート⑫

教科書 P52～53 を読んで考えよう。

### 復興を願う市や市民の取り組み

#### 気仙沼市役所の小野寺さんの話

( )や( )の水あげが有名な気仙沼市では、  
( )の復興は考えられません。そこで、  
( )も参加して、いろいろと話し合い、  
「( )」を合言葉に、大震災を克服し、新しい  
気仙沼をつくるために、( )をつくりました。

震災復興計画をもとに、( )や( )、  
( )、新しい( )の建設などを進めてきま  
した。市民の( )を( )や( )に伝えたり、  
予算や制度を利用して( )を( )に実現し  
たりするのが、( )の役割です。

震災前の状態にもどすだけでなく、( )に強く、  
( )という( )を生かした( )に  
取り組んでいます。

- 市民の( )をもとに、市が立てた計画にそって、復興が進められている。
- まちづくりには、水産業という気仙沼の( )を生かすことが大切。
- 復興を進めていくうえで、( )や( )の果たす役割も重要。

## 気仙沼漁港の小松さんの話

( )による漁港のダメージは、かなり深刻なものだった。すぐに対策本部をつくり、高い目標を立てて、復興に向けて努力。( )や( )、( )のすみやかな対応もあり、震災から約3か月後には、生鮮かつおの水あげを再開することができた。

震災の年もとぎれることなく、気仙沼は、20年以上連続で

( )の水あげ日本一を続けている。

今後は、限りある( )を守りながら、水産業を進めていくことも大切。